

北 河 内 会 報

自 然 愛 好 会

2018年4月20日 №.102
北河内自然愛好会発行
事務局：大東市野崎 3-7-7
西畑敬一 方

ホームページアドレス：<http://www.cc-net.or.jp/~ja3aeh/3shizen/3-3kitakawati.htm>

2018年度北河内自然愛好会総会 2018年1月21日（日）交野市（報告：太田 理）

◎総会議事（（ ）内は担当者・敬称略）

1. 開会宣言（司会：太田理）
2. 西畑敬一会長挨拶
3. 2017年度行事報告（田中光彦）
4. 2017年度会計報告（稲原良三）
5. 2018年度行事計画案（田中）
6. 2018年度予算案（稲原）
7. 『北河内植物目録2018』発行について—愛好会創立30周年記念事業（西畑敬一・木村雅行）
北河内自然愛好会観察会400回に向けて—例会記録アーカイブス作成について（太田理）
8. 会長・会計・運営委員選出・紹介（西畑会長） 会長：西畑敬一、会計：稲原良三、運営委員：太田理（会報編集）、稲原ヒサエ、北川ちえこ、木村雅行、鈴木永子、平 研、高見君江、田中光彦、中町芥子、中山千代美、西村寿雄
9. 会員発表 1. 「タイでの農業研修で見た自然」西畑敬一 2. 「北河内の最近の植物から」田中光彦 3. 「“犬も歩けば”写真集—北河内ML（メーリングリスト）から」平 研 10. 閉会宣言（太田）

2017年度行事報告（（ ）内は担当者・敬称略）

- 1月 1/21（土）2017年度総会 2月 2/18（土）381回例会「鶴見緑地野鳥観察」（平 研） 3月 3/25（土）382回例会「野草を食べる—山田池公園」（西畑敬一・稲原良三） 4月 383回例会 4/4（火）「京都植物園の草木観察」（田中光彦） 384回例会 4/9（日）自主参加「田原の里山・里山一斉調査」（太田理） 5月 5/9（火）385回例会「南港野鳥園緑地観察」（北川ちえこ） 6月 6/17（土）386回例会「淀川の植物観察」（木村雅行） 7月 7/30（日）387回例会「交野・白旗池から源氏の滝へ」（田中光彦） 8月休会 9月 9/23（土）388回例会「甲山の自然（秋）、甲山森林公園」（西畑敬一・稲原良三） 10月 10/15（日）389回例会「秋の神於山」岸和田市（田中光彦）地元ガイドの案内 11月 11/25（土）390回例会「植物・ムシ・鳥の冬備え」交野市私市・大阪市立植物園（平 研）

2018年度行事計画（（ ）内は担当者・敬称略）

- 1月 1/21（日）2018年度総会 14：00～16：30 交野市立保健福祉センター（交野ゆうゆうセンター）
2月 2/17（土）第391回例会「鶴見緑地野鳥観察」大阪市城東区（平 研）
3月 3/17（土）第392回例会「野草を食べる—山田池公園」枚方市（稲原良三・西畑敬一）
4月 4/1（日）第393回例会「春の大仙公園・日本庭園」堺市（西畑敬一）
4/8（日）第394回例会自主参加「下田原の里山・里山一斉調査」四條畷市（太田 理）
5月 第395回例会「JR生瀬から武田尾廃線跡を歩く」（稲原良三）フユザンショウ
6月 第396回例会「神戸薬科大学薬用植物園見学」（田中光彦）
7月 第397回例会「八幡男山（石清水八幡宮）」（木村雅行）タシロランを探そう
8月休会 9月 第398回例会「飯盛山のアケボノシュスランを見に行こう」（西畑敬一）
10月 第399回例会「秋の実りの神於山（こうのやま）」（田中光彦）
11月 or 12月 第400回例会「星のブランコの紅葉」（平 研）
12月 運営委員会 ※例会内容は変更することもあり、ご了承をお願いいたします。

◎参加者：粟田泰子、稲原良三、稲原ヒサエ、岩井幸恵、太田理、岡本美恵子、影千恵子、木村雅行、

小島久美子、鈴木永子、平 研、田中英明、田中光彦、中野潤子、西畑敬一、発ひとみ、古井秀子、美藤ルミ子、山田晃、木村さんの娘さん（以上 20 名）

第 391 回例会「鶴見緑地観察会」大阪市鶴見区 2018 年 2 月 17 日（土）

高見 君江

厳しい寒さの続く中 7 名が集合、池の前で今日の先生役の平研さんに資料をいただき、渡りの説明などを受けて観察開始。今年は例年よりカモ達の渡来数も少ないようだとの事。冷たい風に吹かれ首をすくめながらも、カモ達の仕草にほっこりさせられる。

どの種も美しく着飾っているのは雄。その傍で地味で控え目な色合いの雌を種別するのは一苦労。そこでまずは雄の特徴をとらえる。

ヒドリガモ…モヒカン刈りで存在をアピール

オナガガモ…長い尾で逆立ち自慢、しなやかに粋な和服を身にまとう

ホシハジロ…何があったの？雄の目が赤い

キンクロハジロ…冠羽なびかせ、白黒ボディで眼光ピカリ

オオバン…黒装束に白い鼻筋（くちばし）注目さそう

雄のこれらの特徴、くちばし等で何とか番（つがい）を確認できた。

水辺の草地でツグミがチョコチョコ、こちらも雄はよく目立つ。一方広場側、何やら騒々しい。鈴生（な）りの木が 2 本。なんと“雀生り”□緑地の雀の学校？小さな女の子がじっと座ってそおっとエサを与えている姿がすてきな先生（ムチを持たない）に見えた。

見るからに寒々しい裸のサルスベリのコンテナの足元ではフラサバソウが小さな花を咲かせて春を待っている。中に 1 本シマサルスベリが剪定されず鈴生りの実をまとっていた。そばのアキニレの樹皮をめくって、しばし昆虫探しに没頭。（眠ってるのに何すんネン！ゴメンナサ〜イ）

花博時に植えられた、いろんな国の植物などを見ながら進む。ホルトの木、黒い実をいっぱい落としている。早速味見、「結構いける」の感想。しかしこんなに残して鳥好みではないのか。イスラエル館跡地の石垣にイチヨウシダ、現地より石に付着して渡って来たようで、日本ではめったに見られず、あってもごく小さいようだ。

休憩所で昼食。この広場のノニレの枝元にオレンジ色の大きなキノコ、高所すぎて今年も同定不能。その近くの早咲きカワツザクラはまだまだ蕾。去年はたくさんの花をつけていたのに…。

そして又々鈴生りが。低いモミの木にビッシリ蓑虫（オオミノガ）。笑ってしまうほどぶら下がっていた。そばにはナギイカダ。赤い実はもう無かったが、小さなトゲにご用心！カラタチと二重の垣根をめぐらせておけば防犯効果バッチリとか（ご参考あれ）。小さな木を囲んで「これは何？」枝に何やら虫か病気かそこそげ落として、翼との結論。持ち帰り対象に。後日モミジバフウ（アメリカフウ）の幼木との解答をいただきました。ありがとうございます。観察会終盤付近でイタリアカサマツ、のんびりと松ぼっくりの実を探していて、外国の松の木ぐらいの認識でしかなかったのですが、田中光彦さん曰く「イタリアカサマツの実、その大きなことに驚きました。食べ応えがあると思いました。」

梅林ではほころびはじめた紅白の花にメジロが 3 羽。やがて向かいのロウバイにとび移る。どちらの花にもよく似合う。シジュウカラの姿もあった。田んぼエリアで地面を歩くジョウビタキ、白い三角印も確認できた。またシダ類に飽き足らず地衣類（菌）にまで食指を広げた植物博士から道すがら見つけた 4 種の苔のレクチャーを受けました。

○ミズイロレプラゴケ…樹幹につくうすい黄緑がかった水色

○ロウソクゴケ…遠目にも幹が黄色く染まって見える。ヨーロッパではロウソクの染色に使用された（この 2 種は緑地南口メタセコイヤ並木にて）

○アオバゴケ…椿などの青葉につく。一見葉のキズが虫のように小さい（こげ茶色）

○ドテハナゴケ…石垣や樹幹につく。薄黄緑色小さい丸い花模様に見える

寒さに負けず「犬も歩けば…」の教えに導かれて参加し、さまざまな発見、感動をいただいた楽しい一日でした。感謝です。

◎水鳥：アオサギ（繁殖時足がピンクになる）、コサギ、ユリカモメ、カワウ、オナガガモ、ホシハジロ、ヒドリガモ、キンクロハジロ、オオバン、「変なカルガモ」…マガモとの交雑らしい。アヒルとの交雑はよく見られる。

◎野鳥：ハシブトガラス、ハシボソガラス、ドバト、キジバト、スズメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ムクドリ、カワラヒワ、シジュウカラ、アオジ、ツグミ、メジロ、ジョウビタキ

◎参加者：鈴木永子、平 研、高見君江、田中光彦、長島照文、西尾フミ子、西畑敬一、（以上7名）

§§<変なカルガモ>先日の鶴見緑地でのカモの観察中に、西畑さんから「変なカルガモ」と指摘されたカモ（添付）をフェイスブックに出したら、立教大学名誉教授上田恵介先生（交野野鳥の会顧問）から、「マガモとの交雑では？」との御教示をいただきました。アヒルとの交雑はよく見られるのですが、群れで生きるカモの中ではたまにこのようなことが起こり面白いです。（2/20・平）

§§平さま、先日の観察会、有り難うございました。あの時見た変なカルガモ、早速のご教示、恐れ入ります。マガモとの交雑ではとのこと、渡り鳥もいろいろと交雑するのですね。（2/20・西畑敬一）

§§平 研様、先日の鶴見緑地、大変楽しい観察会でした。ありがとうございます。また変なカルガモ？の情報をありがとうございます。私にとっては殆ど知らない鳥ばかりですのに、交雑種が現れるなんて…。ますます混乱しそうですが少しずつ覚えていきますので、今後ともよろしくご指導をお願いします。（2/21・鈴木永子）

第 392 回例会「野草を食べる—山田池公園」枚方市 2018年3月17日（土）晴れ 北川ちえこ

JR 藤阪から、いつものコースで、農業用水路の道に入って西畑さんの指導の下で摘み菜が始まります。ノビル、ヤブカンゾウ、カラスノエンドウ、ヨモギはずっと生えていました。しばらく歩いていると、スイバ、ノゲシ、タンポポが出始め花や芽を摘んでいきます。それ以外のツクシ、セリ、オニタビラコ、オオカワヂシャ、クレソン、ハコベ、セイヨウカラシナなどは生えているところが決まっています。泥さらいがされていた水路ではマシジミの殻が沢山ありましたが、生きているものもいました。その中にはカワニナやタニシも見られました。畑が広がっているところでは、ケリやヒバリの声を聞きました。カワヅザクラが並んでいるところでは、切株の後にヒラタケが出ていました。この会でキノコは初めてではなかったでしょうか。

今年は野草の種類も量も少なかったと思いますが、日当たりのいいところで咲いていたオオイヌノフグリやホトケノザの花は色鮮やかできれいでした。思いは同じだったのか、稲原さんちの幼子がこれらの可愛い花を摘んでいました。そして、調理した野草の上ののっかっていました。そのコントラストは見ただけで美味しそうで料理がグレードアップしました。摘み菜以外では、フキノトウ、ニラ、タマシダ、チョウマメの差し入れがありました。タマシダは根にあるブドウのような塊です。しゃりしゃりとして青臭い味でしたが、食べられないほどでもありませんでした。チョウマメは色が鮮やかな青紫色でした。レモンをたらずと赤く変色しましたが、どちらも味はなくお湯の味でした。

ヨモギ：団子（みたらし、キナコ）、ゆで汁ティー

ツクシ：卵とじ

タマシダ、ノビル：生

チョウマメ：煮出し（青紫、赤紫（レモン入り））

余り天ぷら粉：ドーナツ（粉を丸めて揚げただけなので、冷えると硬くなっていきますが、おモチのような味だったそうです。どんなものが出るかな？でドーナツの名になりました）。

（天ぷら）セイヨウタンポポ（花）、カンサイタンポポ（花）、スカシタゴボウ、ゲンゲ（レンゲ）、フキノトウ、ノゲシ、カラスノエンドウ、スイバ、ヒラタケ

（ゆがいただけ）セリ、ニラ、タンポポ（葉）、オランダガラシ（クレソン）、セイヨウカラシナ、ヤブカンゾウ、オオカワヂシャ、ハコベ

（トッピング）カワヅザクラ、ホトケノザ、オオイヌノフグリ

調味料：米酢・黒酢、ポン酢、酢みそ、コショウ、マヨネーズ、ごま、ゴマ油、ゴマ和え（ミリン、しょう油を沸騰させてゴマを入れる）

◎どれが美味しかったか聞きました

ヤブカンゾウ（酢みそ、2名）、カラスノエンドウ、スイバ、ノゲシ（クセがない）、ノビル（酢みそ、2名）、ニラ（ゴマあえ）、セイヨウカラシナ（ゴマ和え、辛いと言う方も）、ツクシ（季節感がある、2名）、みたらし団子、ドーナツ、ヨモギのゆで汁ティー

◎他に見た植物、動物：ノボロギク（花）、エノコログサ（立枯）、アレチギシギシ、コセンダングサ（果実）、ルリムスカリ（花）、オランダミミナグサ、ヤエムグラ、タネツケバナ、ナズナ（花）、コウゾリナ、アキノノゲシ、タチイヌノフグリ、ムラサキカタバミ、ムラサキサギゴケ（花）、コオニタビラコ（花）、セイトカアワダチソウ、シロツメクサ、カスマグサ、ヒヨドリ、ナナホシテントウ

《感想》「野草を食べる一山田池公園」に参加して

細川満佐秩

山田池周辺で野草を採って食べる会がありますが行かれませんか？と、稲原さんが誘って下さって、食べる野草ならツクシとヨモギぐらいしか頭に浮かんでこなくて、是非参加させてほしいとお願いしました。食べられる野草があんなにもたくさん有るなんてびっくりしました。皆さんが植物博士のように良く知っていることにも二度びっくりしました。

何もかも全てが初めての体験で新鮮で、食べる前に、これは何という野草か書いて下さり味わせていただき、楽しい一日を過ごすことができました。来年も是非参加したいと思います。この日の企画準備して下さいました方々に大変感謝します。有り難うございました。

《感想》「野草を食べる一山田池公園」に参加して

吹田詩子（10歳）

楽しみながら、野草の名前や特徴などをたくさん知れて良かったです。やさしく、分かりやすく、教えてもらいました!!ふだんは食べられないものが、天ぷらや卵とじ、だんごなど、たくさん種類の味付けで食べられました。どれも、とってもおいしかったです。

飾り付けした花は、私と妹の琴子でたくさん採りました。そこらじゅうに咲いていたのでたくさん採れたのです!!（注説；花はオオイヌノフグリ、ホトケノザ、カワヅザクラ）

私が特に気に入った料理はヨモギダンゴです。妹はタンポポのテン普拉、母はフキノトウのテン普拉が一番気に入ったと言っていました。妹は全部マヨネーズにつけて食べていました。最後にはマヨネーズだけをなめていました。また来年も再来年も参加して、野草のことをもっと知りたいです!!ありがとうございました。



◎参加者：栗田泰子、安藤香子、稲原良三、稲原ヒサエ、今田順子、遠藤エチ子、北川ちえこ、北野謙、北野政子、木村雅行、島田重子、新谷慶子、田中光彦、東郷弘子、長島照文、中町荅子、西畑敬一、発ひとみ、山田良之、山田美鈴、小川博、吹田章恵・詩子(10歳)・琴子(5歳)、出合文子、細川満佐夫（以上26名）

春爛漫の晴天に恵まれた日、百舌鳥駅に集まったのは、何と女性会員のみ、男性は案内役の西畑一人。なるほど今日はエイプリルフールか、設定した日が悪かったと納得。

姦しい雀とともに、公園内へ、満開のサクラの下を植物を見つけてはあれは何の花や、鳥をみつけては何の鳥やとにぎやかに観察しながら日本庭園に向かう。庭園入り口で身分確認の上、全員無料パス。入ってすぐのところどころでちょうど季節柄ツバキ展が行われており、しばしツバキ展を鑑賞する。園丁の職人さんが気さくな方で、われわれのぶしつけな質問にも応じてくださり、いろいろと教わる。原種のヤブツバキをはじめとして江戸初期に改良され、多くの品種が作られた肥後ツバキやその他のツバキについても説明を受ける。

ツバキ展を後にして庭園内を散策する。庭園内では花嫁姿のカップルが何組も庭園をバックに記念撮影をしていた。聞くところによると前撮りと言って結婚式の前に記念写真を撮っておくそう。世の中も変わったもんだと感心する。ワイワイガヤガヤと言いながら散策を進めて行くと、中国風の建物の広場に出る。ここにはボタンの品種が多く植えられており、まだ蕾であったが後 2~3 週間もすれば素晴らしい景色になるだろうと感じた。

丁度、菊咲きの花桃が真っ赤に咲き誇り庭園を彩っていた。歩を進めて丁度庭園全体を見渡せる高台の傘亭というところで昼食。休息後残りの庭園内を散策して出たところで記念撮影をして庭園を後にする。帰路、大仙公園内のサクラを鑑賞しながら歩くが、公園内は多くの花見客でにぎわっていた。時間は少し早かったが午後 2 時前に百舌鳥駅で解散する。参加者の皆さんお疲れ様でした。サクラの花でお腹が一杯になったでしょうか。

§§大仙公園 (北川ちえこ)

◎野草：ノゲシ、オランダミミナグサ、セイヨウタンポポ、カンサイタンポポ (雑種?)、キュウリグサ、カラスノエンドウ、ヨモギ、スズメノカタビラ、ホトケノザ、オオイヌノフグリ、ブタナ、シロツメクサ、オオバコ、アレチギシギシ、ヘビイチゴ、カタバミ、ナズナ、コハコベ、ウラジロチチコグサ、マメカミツレ、ミチタネツケバナ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、ヘラオオバコ

◎植栽で花が咲いていた植物：ヤマモモ、ヤナギ sp、クヌギ、シダレザクラ (果実)、アオキ (雄株)、ジンチョウゲ、園芸種ツバキ、レンギョウ、ヒトエシロヒガンシダレ、ヤエベニシダレ、カンヒザクラ、チシマザクラ、フジザクラ、タムシバ、ハナズオウ、シバザクラ、ストック、サンシキスミレ、ムスカリ

◎動物：マヒワ、ツグミ、カワラヒワ、カワセミ、シジュウカラ、コゲラ、ヒヨドリ、メジロ、キタキチョウ <日本庭園>

◎野草：ミチタネツケバナ、セキショウ、オニタビラコ、マメカミツレ、タチイヌノフグリ、オランダミミナグサ、イヌコハコベ、ツメクサ、ヒメウズ、ヤエムグラ、ノゲシ、カタバミ、ミゾイチゴツナギ、ヨモギ、ノビル、ニガナ、カスマグサ

◎植栽で花が咲いていた植物：ツバキ園芸各種、ヤブツバキ、ユキヤナギ、アセビ、イロハモミジ、カイドウ、シダレヤナギ、アオキ、ヒュウガミズキ、トサミズキ、アセビ、ボケ、モチノキ、ヒサカキ、カリン (蕾)、モモ (ピンク、紅色各種)、ミツマタ、ドウダンツツジ、リキュウバイ、セキショウ、シャガ

◎植栽外樹木：ヤツデ (果実)

◎動物：ハシボソガラス、ハクセキレイ、カワラヒワ、カワウ

《感想》・全員楽しかった・初めて参加したが楽しかった・植物の名前を分かりやすく教えてもらい良かった・ゆっくり歩いて色々見れて楽しかった・ツバキで雄しべの梅芯 (雄しべが外へ広がる)、壺芯 (雄しべが上部で集まり壺形になる) を学んだ・ト半 (ツバキの園芸種名で葯が花弁化している) に恋した・サクラを堪能した

◎参加者：安藤香子、遠藤チエ子、大津由紀子、影 千恵子、北川ちえこ、木村文子、鈴木永子、高見君江、中町芥子、中山千代美、西畑敬一、古井秀子 (以上 12 名)

例年なら集合場所の飯盛霊園の桜が出迎えてくれるところですが、今年ほどことも桜の開花が早く、もう既に葉桜になっていました。当会 4 月 2 つ目の例会でしたが、大阪自然環境保全協会との共催で、北河内からは西畑会長を始めメンバーや会員外の方々、保全協会側の受付の人達の参加で始まりました。始まる前メンバーがヒメオドリコソウで犬の顔をつくっているのを見て、私もこの頃流行りのインスタ映えするねとカメラで撮っていると、朝市のおばさん（知り合いの下田原の人）が痛く興味を示されたので差し上げました。

霊園を出て田原台一丁目付近でいつものオオイタビ観察、中は鮮やかな紫で、イチジクの匂いがしていました。そこから前のグループはどんどん進み、後ろの方は何やら発見で早くも“分裂状態”。空き地のホトケノザ群落やカンサイタンポポなどを見ているうちにドッキングしました。尾根道に入ると色鮮やかなコバノミツバツツジが満開で、新緑の息吹があちこちに感じられるようになりました。

毎年やって来る養蜂業者が今年もミツバチの巣箱を設置していました。生駒市松美台に店を出していて、ここで蜜を集めた後は北海道に行くと言っていました。ハウスなどの花粉媒介をするミツバチを育てているようです。Yさんが巣箱の外に捨ててある(?)蜜蠟をたいそう欲しがっていましたが、一応入口に紐がかかっているのでも思いました。ムベやナガバモミジイチゴなど、やはり実生りのものには興味が湧いてくるようです。

尾根道はずっと高圧線の下を歩くので、関電があちこち背の高くなった木を伐採しているのが見えます。ただ、ある一定の背丈を残して伐っているのはなぜか?とみんな疑問に思っていました。下の方で伐の方がやりやすいのを上のほうで伐るのは大変だろうなど。イノシシのラッセル跡がずっと続いていました。何頭ぐらい来ているのだろうか、結構多くいるようです。道端がモコモコと盛りあがってモグラの通路になっているようです。松の木があるとみんなは、リスの食痕のエビフライ探しを始めます。なかなか見つからないのが、一つ見つけると“エビフライ目線”ができてまた見つかるようです。

足元のシハイスミレや目を上げてヤマザクラやアオモジの花を眺めて楽しみながら、ヒサカキの臭いには敵いません。別名ビシャコと言いますが、なんでそんな名が付いたのかというのもみんなの疑問でした(帰ってネットで調べても分かりませんでした。ヒサカキの名も榊に非ず=非榊や姫榊からとも)。

ペースは順調に葉尾寺池に着き、土手でノウサギのふん探し、あちこちにありました。ツクシも出ています。池下の水溜りにカスミサンショウウオの卵のうが対になっているのが一つ、四・五つ。「会員だより」にも書いていますが、枚方高校生物飼育部の先生や生徒たちがこのカスミサンショウウオをひとつがい飼育して、数を増やしてここに戻すという事をやってくれていたの、去年より多かったです。いろいろな繋がりでも保護・保全ができればいいなと思います。

ハイキング道を少し行くと、何本ものコバノミツバツツジが満開で日差しに映えてとても美しく、みんな見とれていました。道端の各種のスミレ、チゴユリやショウジョウバカマの群落など見ながら堂尾池に着きました。そこでお昼ご飯。寝屋川の人たちがコーヒーを振舞ってくれました。

その後まとめの会をして鳥合わせをしている時、長島さんが「あっ、オオルリ!!」と叫びました。みんなその方向を目を凝らしたり、双眼鏡を取り出して見て、やはりオオルリ!誰かが「オオルリ、自分もいるぞと姿を見せに来たんやろうな」と言ったが、まさに丁度というタイミングでした。最後にハッピーな場面で幕を閉じました。皆さまお疲れさま、ありがとうございました。

《感想》里山調査に参加して

天候に恵まれ、すがすがしい気持ちで里山一斉調査に参加させて頂きました。いつもの飯盛霊園を出発して R163 号を渡って田原台一丁目からスタートしました。最初にオオイタビをいつもの場所で観察して、民家の間から山道に入りました。それまでにタンポポ(セイヨウ・カンサイ)が多く咲き、きれ

いでした。

山に入るとツツジ、サクラ、ツバキなど多くの花が咲きみだれて、新緑とマッチしていました。山道の両側はイノシシの行動したラッセル跡がほとんど全線残っておりまして。リスの”エビフライ”も発見されていました。ウグイスの鳴き声をずっと聞きながら進んで薬尾寺池に到着。池では釣りをしている人がいました。少し進んで、心配していましたカスミサンショウウオの卵のうが見つかり安心しました。（別の場所・その水溜りから山側に入ったところに春先に穴を掘って水溜りを作っておいたところには見つからず残念でした。）これからも長く生息してくれることを願いながら、どっぴー広場から堂尾池に進みました。

どっぴー広場の池の中を観察してみると、ホタルの幼虫の餌になるカワニナが多く見られ、今年もホタルが多く飛んでくれることと思いき嬉しくなりました。堂尾池でちょうど昼食時間になり、皆で楽しく過ごしていると、突然オオルリが池のふちの木の枝にしばらく止まり感動しました。池の水面にツバメがずっと飛び交い、カルガモやカイツブリも見られました。

他にもたくさん見られましたが、残念なのはコナラやクヌギが枯れているのが数多く見られたことです。また、山道に危険なところもあり、これからの安全面での課題になり対策を考えなければならないと思いました。（ビオトープ田原里山の会・平岩 登）

◎確認したもの

○鳥類：アオゲラ、アオジ、ウグイス、カラス（ハシボソ・ハシブト）、キセキレイ、コゲラ、コジュケイ、シジュウカラ、スズメ、ツバメ、トビ、ヒヨドリ、メジロ、ヤマガラ、シロハラ、センダイムシクイ、オオルリ、キンクロハジロ、カイツブリ

○動物：イノシシ、リス、ノウサギ、モグラ、カスミサンショウウオ

○樹木(花・つぼみ)

ミヤマガマズミ、コバノガマズミ、ニワトコ(実)、アオキ、アオバナアオキ、アセビ、モチツツジ、コバノミツバツツジ、ヤブツバキ、ヒサカキ、ウリカエデ、タチヤナギ、ツリバナ、コナラ、ヤマザクラ、ウワミズザクラ、ニガイチゴ、ナガバモミジイチゴ、フジ、アケビ、ミツバアケビ、ゴヨウアケビ、サルトリイバラ、アオモジ

○草花(花・つぼみ)

ハルジオン、コオニタビラコ、アオオニタビラコ、アカオニタビラコ、ハハコグサ、カンサイタンポポ、セイヨウタンポポ、ムラサキサギゴケ、サギゴケ、トキワハゼ、キランソウ、ツクバキンモンソウ、カキドオシ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、タチイヌノフグリ、オオイヌノフグリ、ムシクサ、キュウリグサ、ヤエムグラ、オランダミミナグサ、コハコベ、ミドリハコベ、ノミノフスマ、スイバ、ナズナ、タネツケバナ、ミチタネツケバナ、タチタネツケバナ、スカシタゴボウ、スマレ、タチツボスマレ、シハイスミレ、ツボスマレ、ニオイタチツボスマレ、ナガバタチツボスマレ、アリアケスマレ、ククバスマレ、ミツバツチグリ、ヘビイチゴ、ヤブヘビイチゴ、ゲンゲ、コメツブツメクサ、シロツメクサ、カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、ヒメリュウキンカ、ケキツネノボタン、ヒメウズ、ムラサキケマン、スズメノテッポウ、ケナシハルガヤ、マツバスゲ、ヒカゲスゲ、アオスゲ、アゼスゲ、クロカワズスゲ、スズメノヤリ、ヤマスズメノヒエ、シャガ、シュンラン、チゴユリ、エダウチチゴユリ、ショウジョウバカマ（樹木・草花記録は田中光彦さん）

◎参加者：栗田泰子、太田 理、木村雅行、田中光彦、長島照文、西畑敬一、山田良之、山田美鈴、長島みどり、長島文恵、保全協会受付 9名（以上 19名）

《投稿》 食べられるシダの話 (ある本の紹介)

田中光彦

だれでも知っていて、身近にあるシダで食べられるものと言えば、ワラビ、ゼンマイ、ツクシ、そして手間暇かけずに食べられる美味しいクサソテツ (山菜名コゴミ) ではないかと思えます。このうちワラビは発がん性物質を含んでいるということで、食べ過ぎに注意が必要です。何といても鹿も食べないほどの植物ですから。

奈良県の川上村のおじいさんの話では、ヒキガエルは足がうまかったとかいう話とともに、「ワラビは、ぬくい雨降りの日、見る間に大きくなる。ワラビが出てくると、じっと見とったら、おもしろかったで。」という話もその本に紹介してある。成長していくのが目に見えるというのはすごいと思う。ひょっとしたらタケノコもそうかもしれない。だれか実験してみる人はいませんか。

ところでワラビは沖縄では食べる習慣がないそうです。だから見ても単なる雑草にしか見えないようで、スーパーなどで売っている本土から持ち込まれたワラビもちを知っていてもそれがシダの根茎だとは思わず、デンプンを取るのだからイモの仲間くらいにしか思っていないようです。またゼンマイは唯一の自生地絶滅し、今は沖縄にはないとのこと。ツクシはもともと沖縄にはないので、沖縄の人は絵や写真でしか見たことがないそうです。

我々、北河内自然愛好会のメンバーで野草を食べる例会に参加したことのある人は、上記以外のシダでもベニシダとかイノデなども食べられることを知っています。他にもないでしょうか。そこで、下に「食べられる野生植物大辞典 草本・木本・シダ」(橋本郁三) から、「日本で食用とされるシダ」の一覧を引用してみます。(科名など一部変更しています)

トクサ科	スギナ (ツクシ)
ハナヤスリ科	フユノハナワラビ、ホウライハナワラビ
ゼンマイ科	ゼンマイ、ヤシャゼンマイ、ヤマドリゼンマイ、オニゼンマイ
キジノオシダ科	ヤマソテツ
ヘゴ科	ヒカゲヘゴ、ヘゴ、マルハチ
コバノイシカグマ科	ワラビ
イノモトソウ科	ミズワラビ、ヒメミズワラビ
チャセンシダ科	オオタニワタリ、ヤエヤマオオタニワタリ、シマオオタニワタリ
ヒメシダ科	オオバショリマ
メシダ科	テバコワラビ、エゾメシダ、ミヤマメシダ、イッポンワラビ、ミヤマシケシダ クワレシダ、キヨタキシダ
コウヤワラビ科	クサソテツ
ヒリュウシダ科	ヒリュウシダ
オシダ科	ジュウモンジシダ

私はこの表の中で、はじめに書いた 4 種類の他にオオタニワタリを、石垣島の飲み屋で出されたもので食べたことがあります。またヒカゲヘゴは沖縄で採集してきた新芽を食べました。この新芽は直径 5cm ほどもあるので、沖縄ではダイコンの代わりに輪切りにして煮込んで食べるそうです。またこの表には載っていないがタマシダ科のホウビカンジュも沖縄では食べるそうです。やはりタマシダ科のタマシダですが、根元の地表近くに大きな飴玉のような玉があります。これは乾燥に耐えられるための水分を貯蔵する器官で、タマシダの名前の由来になっています。この玉を子供時代におやつとして食べたという話があります。玉は食べるとシャキシャキして少し甘味があるそうです。この玉のことを種子島で

はネコノキンタマと言ってビー玉代わりにして子どもが遊んでいたとか、沖縄の本部半島の方ではおじいさんの鞆丸という名前がついていたとか本に書いてあったので、私も食べてみたいが、少しためらっているところです。

最初にワラビは鹿も食べないと書きましたが、鹿の食べるシダはたくさんあるようで、鹿のいる山で食べ残されたシダの種類はワラビの他イワヒメワラビとかコシダ、ウラジロ、ナチシダなどで、そんなにたくさんの種類ではない。種子島でヤギその他家畜に食べさせるシダとしてヒメシダ科のホシダ、ウラボシ科オオイワヒトデ、メシダ科シロヤマシダがあげてある。なおハワイではシロヤマシダの1種を食用として移植しているらしい。屋久島では鹿の食害でホシダ、ヒロハノコギリシダはほとんど見られなくなっているとのことである。

人は他の動物も食べないようなワラビでも食べる。(日本だけでなくニュージーランドでも先住民のマオリが根茎を食料としていたそうだ)。従って家畜が食べるシダならなんでも食べられると考えてよいと思う。さしあたって身近にあるホシダなら、誰からも苦情は出ないと思うのでチャレンジしてみようと思います。しかし、どれがホシダの新芽なのか、その新芽の時期に見極めるのが難しいのではないかと思っているところです。

以上、色々書きましたが、その典拠は次の本です。

盛口 満 (ゲッチョさん) 著「シダの扉 (めくるめく葉めくりの世界)」2012年 八坂書房

著者は生物全般、特に植物・きのこ・貝・骨・糞などに造詣が深いですが、シダに関しては初心者ということで、初心者がシダに親しんでいく過程を中心に据えて書かれた読み物的な随筆です。私のようにシダがわからない者でもたいへん面白く読める本です。ぜひ一度手に取ってみてください。きしわだ自然資料館の人と一緒に大阪でイヌケホシダを探す話なども出てきます。

追記—3月の例会にタマシダの玉を持って行って、皆さんに味見をしてもらいましたが、その玉のことを「ネコのキンタマ」とか「おじいさんの鞆丸」とも言うとは、とても言えませんでした。

《会員交流コーナー》*****

§§<毎日新聞大阪版>11月23日毎日新聞大阪版に私の記事が掲載されました。「ここであった戦争盾津飛行場跡地「防空自警」掛け声に」というもので、紙面の1/4程の大きな扱いです。盾津飛行場は現在の東大阪市役所、府立中央図書館の北に位置し、戦前の右翼・笹川良一が主導してつくったもの。1932(昭和7)年笹川は国粋義勇飛行隊を組織し、その主義に「一人一艦撃沈」を掲げた。終戦末期の特攻隊の精神そのものでした。一方で現在の八尾空港・戦前の陸軍大正飛行場は盾津の約10倍に拡張され、日本陸軍の中樞にならんとしていました。盾津飛行場は終戦で撤収になりました。ともあれ、地域の埋もれつつある戦争の遺産を記録するという活動しています。(12/6・太田理)

§§<ありがとうございました>今年一年楽しく過ごさせてもらいました。ありがとうございました。天野川でも、ダイサギとコサギが年末の挨拶交わしていました(添付)。(12/31・平 研)

§§<明けましておめでとうございます>除夜の鐘を聞きながら、テレビの前でコップ酒。卒寿を越したこの身、今年もこの鳥に学んで、食べて飲んで生き抜きましょうと…。今年もよろしく願います。(1/1・平)

§§<ムクドリの死>今朝、地域の人からムクドリの死体が届けられました。道路わきに落ちていたとのこと。庭木の下に埋めました(添付)。(1/15・平)

§§<犬も歩けば>寒がりの老犬、風のない冬晴れに誘われて天野川遊歩道を歩きました。

1.日向ぼっこのアオサギの嘴と足には婚姻色が萌していました。春がここに忍び寄っていました。

2.天野川に定着したオシドリを河村さんに居所を教えてもらって写しました。このオシドリ、天野川の

カルガモの仲間に入り込んで2年余り、オシドリである己の存在を忘れてしまったのでしょうか？認知症？（1/20・平）

§§<犬も歩けば>今日は寒さが緩んだので、家内の診察時間中に天野川遊歩道を歩き、オシドリを訪ねました。このオシドリ、10羽ほどのカルガモの群れの中で泳ぎ廻っていたが、何思ったか、ひとり堰堤の上に行き、思いに沈んだようにじっと佇みました（添付）。時折、自分はカルガモではないと群れの中で孤独感に襲われるのかも？自分なりの思いで見るとも楽しいです。（2/9・平）

§§<お知らせ>当会会員の岡田三千代さんが所属しておられる「2018 関西水彩画展」が3/13～18 大阪市立美術館（地下展覧会室）で開催されます。彼女も出品されますのでご案内します。（2/24・太田）

§§<お礼・お知らせ>2/1～7 寝屋川市民総合センターで開催された環境展示に田中光彦さんが出展され、お礼状を寝屋川市自然を学ぶ会山田さんより頂きました。なお、写真のプリントや展示など何かと山田さんたち学ぶ会の方々にお世話になりました。お礼を申し上げます。何かの折に展示に使って下さいと、展示物は私の方で預かっています。（2/24・太田）

§§<田原のカスミサンショウウオ>あるご縁で枚方高校生物飼育部と繋がりました。お聞きすれば、昨年カスミサンショウウオを繁殖させて、元の山に放流したとのこと。当地のカスミサンショウウオはここ2年ほど産卵数が激減していて心配していたところです。昨年その繁殖活動を「大阪府高等学校生徒生物研究会」で発表し、優秀研究賞を受賞しています。読売新聞にも掲載されたり、あちこちで話題になっているようです。発表のプレゼン資料を頂いています。毎年1～2月に水溜りの産卵環境整備（水溜りの水面が浅くなるので、溜まった泥や落ち葉を掻きあげる）をしているのですが、私たち高齢化でしんどくなっている作業ですが、今年は若い先生や生徒が応援に来てくれました。ネットで、ツイッターや枚高ブログなどでどしどし発信しているようです。（2/24・太田）

§§<田原のカスミサンショウウオ>枚方高校のカスミサンショウウオの件、驚きました。場所もさることながら生体の採集、飼育、産卵、孵化、放流を行ったことに驚きです。又、生体の採集場所が田原のあの場所だったとはびっくりしました。今年も泥上げを行ってくださったとのこと、感謝します。今年も注意深く観察しながら枚方高校のみなさんと協力しながらサンショウウオが住みやすい環境になるよう見守って行きましょう。（2/16・西畑敬一～先に会長にお知らせした返事です）

§§<梅の花>私市植物園に梅の開花の様子を見に行きました。咲き始めていました（添付）。ここには春が忍び寄っていました。（2/27・平）

§§<会報ホームページ>みなさんへ、会報のホームページを101号まで見られるようにしました。インターネットの検索に「北河内自然愛好会」と入れると「北河内自然愛好会 CC-NET ホームページ」が出ます。そこをクリックしてください。（2/28・西村寿雄）

§§<お知らせ>大阪府中部農と緑の総合事務所の方から案内をもらいました。「おおさか農空間づくりプラットフォーム」内容 1.クロストーク～農空間の夢を語ろう～、2.新プロジェクト紹介～おおさか農空間お宝発見プロジェクト～です。3/17（土）10：30～12：15 グランフロント大阪うめきた SHIP ホールです。興味がありましたらどうぞ。（3/7・太田）

§§<天野川遊歩道>家内の診察の間、天野川遊歩道を歩きました。近くに飛んできた見かけない模様の鳥、慌てて写してよく見たら木漏れ日で模様のように見えたシロハラでした。老眼のカスミのせいでした。路傍にはオオイヌノフグリ（星のしずく）が咲き乱れて春の到来を告げていました（3/13・平）

§§<関西水彩画展>今日、岡田美千代さん出展の画展を天王寺の市立美術館で見せてもらいました。絵は、古びた足踏みミシンが一台白いカーテンの前に置かれていて、ミシンの台には針刺しと糸巻きが置いてあり、ミシンの上には笠をかぶった電灯がつるされているだけの、何の変哲もない昭和時代の室内の一隅のようで「微風」と題されていました。だが近づいてよく見ると、古びたミシンの台の木目、

カーテンの生地織り目や微風にそよいだ微かな寄れ目などの写真も及ばないような緻密な描写、そしてこの絵が醸す雰囲気には、日本人の美意識の底を流れる「もののあわれ」が滲んでいるのを感じさせられました。すばらしい絵を見せてもらいました。(3/18・平)

§§<キガシラヒヨドリ>今日の庭のキガシラヒヨドリです。この季節、庭でこのヒヨが見られる楽しみ、今年は今日初めて見られました。ツバキは10種類余り、垣根を含めて20本近く植えています。当分楽しめませう。(3/19・平)

§§<教えて>18日に淀川大淀野草地区で、ノチドメのような葉で、巨大な塊を見つけました。この塊は1ヶ所のみで、その周り一面にはノチドメ(直径2センチくらい)がでていました。何か分かりますでしょうか?他の場所で採集したノチドメ(葉の直径3~4センチ、だと思っております)と比較しましたら2倍は大きいと思います。茎や葉の写真を添付します。右の小さい方がノチドメです。ノチドメが分からなくなってきました。よろしく願い致します。(3/21・北川ちえこ)

§§<会えました>30年来、3月になると待ちかねる花、この辺りが日本における自生の南限とされる可憐なイワナシの花、雨が止んだ今日、写すことができました(添付)。日当たりの悪い、栄養分の少ない岩肌へばりついていて、人の手では育たないヒネクレもの、その可憐なヒネクレがたまらなく好きです。株数は年々減少しています。心配です。(3/22・平)

§§<妙見の桜>妙見河原の老桜が今年も花をつけました(添付)。あと幾たびの春に会えるでしょうか。わが身と同じ思いです。(3/27・平)

§§<落花の雪、妙見>落花の雪に踏み迷う肩野(交野)の春の桜狩り・・・(太平記)。

今日の妙見河原の桜並木の下は、落花の雪が降り積もり、道行く人も踏み迷う足取りに見えました(添付)。太平記の道行きの表現は誇張ではありませんでした。落花の美しさの風情には、日本人の美意識の根底に横たわる「もののあわれ」をしみじみ覚えさせられます。(4/4・平)

◎会員異動について(敬称略)

退会:松下昭(2/22・守口市) 瀧澤俊彦(3/7・大阪市)

◎編集後記:今号で田中さんが投稿をしています。待ち望んでいたものです。2009年12月発行会報第77号を振り返ってみると、「小型デジタルカメラでこの写真をきれいに撮りませう」(キノコ講師上田俊穂先生)や、§§サヌカイトの採集・お孫さんの作文(美藤ルミ子)§§近況報告、摂南大薬学部の薬用植物展示(田中光彦)など投稿が見えます。その号から編集をお引き受けしています。以来9年編集したことになります。そろそろマンネリにもなって、次にバトンタッチをしたいと思っています。どなたか。いつものことですが、編集や投稿に関して、お気軽にご意見などお寄せ下さい。(太田)

【諸連絡の窓口】 ◇会の代表者・会長:西畑敬一 072-876-8114

◇会費の納入・会計に関して:稲原良三 072-892-8507

◇会報の投稿・編集に関して:太田理 0743-79-9665 会員交流コーナーなども太田宛メールか郵送で送ってください。 ma36ux75ml@kcn.jp 〒575-0013 四條畷市田原台7-5-2

北河内自然愛好会 年会費 1000円 郵便振替 00970-4-103735

目次

2018年度北河内自然愛好会総会報告 太田 理-----1

第391回例会「鶴見緑地観察会」高見 君江-----2

第392回例会「野草を食べる一山田池公園」北川ちえこ---3

《感想》「野草を食べる一山田池公園」に参加して 細川満佐秩-----4

《感想》「野草を食べる一山田池公園」に参加して 吹田詩子(10歳)-----4

